

第 69 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた  
KDDI 株式会社への追加質問及び回答  
(着信事業者が設定する音声接続料の在り方関係)

問 1 電話のコストは、トラヒック比例分、加入者数比例分、呼数比例分に分けられます。IP 化が進んだ場合、トラヒック比例分は小さくなると思います。トラヒック比例分、呼数比例分が小さくなれば、接続料金は小さくなり、電話の定額料金制が普及して、ビル&キープが導入しやすくなります。これらの関係のある程度定量的にご教示頂けますか。(※固定網に関するご質問と理解いただければと存じます。)

(酒井構成員)

(KDDI 回答)

- 一般的に、IP 化や技術の進展により音声役務に係るコストは将来的に縮小するものと考えられます。
- 例えば、NTT 東西殿のひかり電話のように、音声役務に係る設備の多くをデータ役務と共有することができる場合、データ通信のトラヒックが大きく伸びることにより、音声役務に配分されるコストは縮小するものと想定されます。しかしながら、全事業者が NTT 東西殿と同じような設備構成であるとは限らず、IP 化によってどの程度のコストが縮小されるのかは、設備構成、事業規模、サービス体系等によって異なるものと考えます。
- ユーザ料金は、接続料支出だけではなく、ネットワークに係るコストや営業コスト、他事業者との競争環境などを総合的に勘案したうえで設定されるものですが、ビル&キープの導入をきっかけとして料金競争が発生する可能性はあると考えます。

第 69 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた  
KDD I 株式会社への追加質問及び回答  
(トラヒック・ポンピング関係)

※赤枠は構成員限り

問 1 貴社においてトラヒック・ポンピングによる被害額が毎月いくら程度と想定できるか、試算値を示してください。

(佐藤構成員)

(KDD I 回答)



問2 トラヒック・ポンピングに対する事業者としての対応策について、既に実施してそれなりの成果のあったものを示してください。さらに、今後、実施する可能性のある対応策をお示してください。

(佐藤構成員)

(KDDI回答)

問3 トラヒック・ポンピングに対して貴社が対応策を講じる上で、課題となっている点や、制度的な手当が必要であると考えられる点があればお示し下さい。

(佐藤構成員)

(KDDI回答)

